

## 乗馬の名手

― 初代宍粟藩主・池田輝澄 ―

「宍粟藩」は、今から四百年前の元和元年（一六二五）、池田輝政の四男の輝澄が宍粟郡を領して山崎（鹿沢）城主となったことに始まります。それ以前は父輝政が播磨一国を支配し、次いで輝政次男の忠継が備前国ほか宍粟を含む西播磨三郡を領しましたが、忠継が死去したことで弟の輝澄が宍粟郡三万八千石を領有したのです。江戸時代前期の宍粟は池田家一門と縁の深い地域でした。

その後、輝澄家中は「御家騒動」に見舞われ、所領は召し上げられ、輝澄とその家族は因州鹿野（鳥取市鹿野町）に蟄居となりますが、ここでは御家騒動から少し離れて輝澄という人物をながめてみたいと思います。

輝澄は慶長九年（一六〇四）四月二十九日に修築中の姫路城で生まれます。宍粟藩主になったのは十一歳の時で幼少期は左近と称しています。元和七年（一六二二）十七歳の時に山崎城下の青蓮寺に

与えた寺領宛行状の判物（花押をすえた文書）には、「松左近政義」とあり、元服して政義を名乗ったことがわかります。

また若い輝澄が乗馬の名手だったことは案外知られていません。寛永三年（一六二六）、後水尾天皇は九月六日から十日にかけて京都二条城に行幸します。三代将軍家光、大御所秀忠も奉迎のため早々に上京して準備を整えます。行幸の三日目、天皇は乗馬を上覧しています。その時の様子を徳川将軍家の正史である「徳川実紀」は次のように伝えています。

馬場殿にわたらせ給ひ乗馬観覧あり。騎馬の達者えらばれて、思い思いにその秘術を尽くし天覧にそなへらる。その中にも松平石見守輝澄、ことさらよくつかふまつりしかば、御感にあづかり、大御所より鎌倉助真の御刀、御所より守家の御刀を褒賜せらる。

「乗馬観覧」のメインが輝澄の馬芸だったのです。大御所秀忠と家光（御所）からそれぞれ御刀を頂戴したことがわかります。幕府は

威信をかけてこの催しに臨んだと思います。輝澄は見事にその責任を果たしたのだと思います。

その後輝澄の馬術は諸記録に見えませんが、江戸時代の山崎城下にはかつて馬場が存在したと伝えられているので、あるいは乗馬の名手輝澄に由来するものかも知れません。

なお池田輝澄については再評価が必要だと思います。あまり「御家騒動」にとらわれず、人間像を多面的に捉える必要性を感じています。

（鳥取県立博物館 伊藤康晴）



▲池田輝澄（石入）晩年の水墨画（鳥取市鹿野町 雲龍寺蔵）

## 編集後記

鮎釣りも解禁され、いよいよ初夏の到来です。でも気温だけでいえば、初夏を過ぎて真夏ですね。何でも5月として観測史上、最も暑かったとか。記録的といえば、今年の5月は珍しいことがありました。金曜日が5回、土曜日が5回、そして日曜日が5回もある大変珍しい月でしたが、皆さんは気が付かれましたか。良い記録や楽しく笑えるような珍事はいつでも大歓迎です。これから宍粟市でどんな記録や珍事が起こるでしょうか。その時は「広報しそう」でしっかりとお伝えしていきますので楽しみにしてください。

真

広報しそう 6月号

平成27年6月15日発行(123号)

発行／宍粟市 編集／企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6

☎ 0790-63-3000 (代) FAX 0790-63-3061 (代) ✉ info@city.shiso.lg.jp 🌐 http://www.city.shiso.lg.jp